

N⁰5805

N⁰5802

インテグレートッド・アンプ オーナーズマニュアル

mark
levinson[®]
by HARMAN



目次

概要	2
設置	4
包装箱の開梱	4
設置および換気	4
電源要件	5
動作状態	5
接続	6
N°5805 背部パネルの概要	6
外部コンポーネントの接続	7
クイックリスニング	11
コントロール	11
フロントパネルの概要	12
リモートコントロール	13
リモートコントロールの概要	13
リモートコントロールの操作	14
ブラウザのセットアップページ (BSP)	15
セットアップ	16
セットアップメニューのナビゲーション	16
入力のセットアップ (5805)	17
音量	21
電源	22
ディスプレイ	22
詳細設定	23
サラウンドサウンドプロセッサ (SSP) のセットアップ	27
トラブルシューティング	29
仕様	32

概要

マークレビンソン N°5805 および N°5802 インテグレートッド・アンプのご紹介

マークレビンソン®のインテグレートッド・アンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。世界最高峰の再生能力を持つオーディオ機器のオーナーとなりました。何年にもわたり、卓越した音楽体験をお楽しみになれることをお約束します。

N°5805 および N°5802 は、数十年にわたる最先端のオーディオエンジニアリングと最新の技術を活かし、比類のないパフォーマンスおよび価値をお届けします。大胆なインダストリアルデザイン、全段ディスクリート構成の PurePath 回路、PrecisionLink II DAC、MainDrive ヘッドフォン電源、強力なデュアルモノラルクラスの AB 増幅を搭載した N°5805 および N°5802 は、プレミアム機能と高い柔軟性を提供し、絢爛かつ忠実な再生を可能にします。N°5805 は、アナログおよびデジタル入力に対応し、N°5802 はデジタル入力のみに対応しています。N°5805 および N°5802 は、誇りを持って米国にてデザイン、エンジニアリング設計、そして精密製造されています。

インダストリアルデザイン

堅牢な材質、豪華な仕上げ、際立つ造形は、マークレビンソンのデザインの象徴とも言えるでしょう。厚さ 1 インチのビーズブラスト加工と黒アルマイト加工を施された硬質アルミニウム製のフロントパネルは、滑らかなガラスディスプレイにシームレスに流れるように機械加工されています。ガラスディスプレイ自体は、透明なアルマイトのベゼルに埋め込まれています。

マークレビンソンの表徴的な曲線を描くノブは、より洗練されたデザインとなりました。優しくカーブする側面が丸みを帯びた前面に移行するデザインは、底の支え部分にも採用されています。デボス加工されたトップカバーの通気口、ガラスパネルの裏側にスクリーン印刷されたロゴ、アルミニウムボタンと、ディテールにこだわったデザインとなっています。エレガントな 5000 シリーズには、カスタムアルミニウムの IR リモートコントロールが付属しています。

デジタルオーディオ

N°5805 および N°5802 は、マークレビンソン PrecisionLink II DAC を搭載し、突出したデジタルオーディオ能力をご提供します。最新世代の ESS Sabre 32 ビット DA コンバーターとジッター除

去回路、完全バランス設計のディスクリート構成 I/V 回路が、デジタルオーディオ処理ステージの心臓部を構成しています。ユーザーが選べる 7 個の PCM フィルターおよび DSD 再生の 4 つのローパスフィルターが用意されています。

両モデルとも、MQA (Master Quality Authenticated) に対応し、MQA オーディオファイルおよびデジタル入力からのストリーミングの再生が可能です (非同期 USB を除く)。さらに、Bluetooth 受信機は、AptX-HD を搭載しており、最高品質の Bluetooth 再生が可能です。

MainDrive A級ヘッドフォン電源

高い評価を頂いた 500 シリーズのコンポーネントと同様、N°5805 および N°5802 は、MainDrive™ヘッドフォン出力を搭載しており、別のヘッドフォンアンプなしで、純粋な A 級でヘッドフォンを直接駆動するために特別設計された電流・電力容量のプリアンプ出力ステージを採用しています。

増幅

全段ディスクリート構成の直結型 AB 級アンプチャンネルは、左右のチャンネルに個別の二次巻線を備え、特大 (500+ VA) のトロイダルトランスが電力を供給します。電圧ゲインステージは、高い評価を頂いた N°534 アンプから直接継承したトポロジを採用しています。これは、A 級で作動する 2 つの高速ドライバトランジスタと 6 つの 260V、15A 出力トランジスタで構成される出力ステージに相当します。チャンネル毎に 4 個の 10,000 μ F のコンデンサを出力ステージ回路基板に直接配置することで、8 Ω で 125W/チャンネルの保守に十分な電流を楽に提供し、大幅な電力増加と 4 および 2 Ω の負荷で、信頼できる動作を実現します。可変ラインレベル RCA 出力は、システム拡張と柔軟性を実現します。

コントロール

システムインテグレーションおよび通信ポートには、Ethernet、RS-232、IR 入力と 12V トリガ入出力が含まれます。構成のセットアップ、インポート、エクスポート、PC および標準 Web ブラウザを使用したソフトウェア更新を、内部 web ページで行うことができます。さらに、主なコントロールシステムのドライバも利用することができます。

N°5805 アナログ入力ステージ

N°5805 の基盤は、独自の PurePath 回路構成にあります。全段ディスクリート構成の直結型のデュアルモノラル、ラインレベルプリアンプ回路は、Shelton デザインチームが 2 つの特許を出願中です。音量調整用のデジタル制御されたレジスタネットワークと組み合わせた独自のシングルゲインステージで、最高のシグナルインテグリティと最大限の帯域幅を維持します。カスタムのマークレビンソン RCA コネクタを使用した 3 つのステレオラインレベル入力(1 つのバランス XLR と 2 つのシングルエンド)は、それぞれ独自の高信頼性信号スイッチングリレーを備えています。

新しく設計されたフォノステージは、高性能とスペース効率のために低ノイズの集積回路と高い評価を頂いた N°500 シリーズ Pure Phono ステージからの主要なディスクリートコンポーネントを統合するハイブリッドゲイントポロジータが特徴です。また、N°500 シリーズと同様に、ハイブリッドアクティブ / パッシブ RIAA イコライザーは、精密レジスタとポリプロピレンコンデンサを採用し、卓越した精度と音質の明瞭度を実現しています。ユーザーはセットアップメニューから MM/MC ゲインと超低周波音フィルタを選択できるほか、背部パネルから容量およびレジスタの負荷設定に容易にアクセスすることができます。

ハイライト

デジタル入力

- USB 2.0 x1、同軸 S/PDIF x1、光 S/PDIF (No. 5805) x2
- USB 2.0 x1、同軸 S/PDIF x 2、光 S/PDIF、および AES/EBU (No. 5802) x 1
- 384kHz/32 bit PCM および DSD 11.2MHz 能力
- aptX-HD対応Bluetooth オーディオ入力
- フル MQA デコーディング

アナログ入力 (No. 5805のみ)

- XLRバランス ステレオ x 1、RCA ステレオ x 2、RCA フォノ (MM/MC) x 1
- HTプロセッサパススルーモード

出力

- ライン出力: RCA ステレオ (可変) x 1
- ヘッドフォン出力: 1/4-インチ/6.35mm ジャック (フロントパネル) x 1
- スピーカー出力: 高電流バインディングポスト 2組

コントロール

- コントロールポート: Ethernet (RJ45)、RS-232 (DB9)、12Vトリガ入出力および IR入力 (3.5mm ジャック)
- Webページでの設定、構成インポート/エクスポート、ソフトウェア更新
- 同梱のコンパクトなIRリモートコントロール
- サードパーティオートメーション向けコントロールモジュール
最新情報については、www.marklevinson.com をご覧ください。

設置

包装箱の開梱

N^o5805/N^o5802 を開梱する場合：

- 梱包材は、将来、インテグレートッド・アンプを輸送する際に必要となるため、保管してください。
- インテグレートッド・アンプに輸送中の損傷の兆候がないかを点検してください。損傷が見つかった場合は、マークレビンソン[®] の正規販売店に問い合わせの上、適切なクレーム請求の方法を確認してください。
- 付属品を確認し、包装箱から取り出してください。下記の付属品がすべて揃っているかを確認してください。同梱されていないものがある場合は、マークレビンソン の正規販売店までお問い合わせください。

IEC 電源コード x 1(本製品の輸送先の地域に応じた準じたプラグ)

リモートコントロール x 1、単 4 形電池 x 2

オーナーズマニュアル x 1

安全のしおり x 1

リモート用六角工具 x 1

購入から 15 日以内に N^o5805/N^o5802 の製品の登録をお願いします。www.marklevinson.com でオンラインで登録します。日付が記載された領収書の原本は、保証の対象であることを証明するものであるため、大切に保管してください。

設置および換気

- インテグレートッド・アンプはオープンラックの棚の最上段など、上に何も無い棚に設置し、適切な換気を確保してください。インテグレートッド・アンプは、密閉型キャビネットやラックの内側に設置しないでください。
- インテグレートッド・アンプが頑丈で平坦かつ水平な面に設置されていることを確認してください。
- インテグレートッド・アンプは、相互接続ケーブルをできる限り短くするため、関連するオーディオコンポーネントにできる限り近接した場所に設置してください。
- 直射日光が当たらず、乾燥した、換気のよい場所を選択してください。
- N^o5805/N^o5802 を高温多湿、蒸気、煙、湿気あるいは過剰な量の埃のある場所で使用しないでください。

電源要件

N°5805 は、工場出荷時に、50Hz または 60Hz で、100、115、または 230VAC の電力で 動作するように設定されています。アンプを操作する前に、AC 入力コネクタ近くの背部パネルの電源ラベルに正しい動作電圧が表示されていることを確認してください。N°5805/N°5802 の販売地域で使用するための取外し可能な IEC 電源ケーブルが同梱されています。

N°5805/N°5802 が意図された電圧以外の AC 電圧に接続すると、安全および火災の危険の原因となる可能性があります、本機を損傷する恐れがあります。N°5805/N°5802 の電圧要件について、あるいはお住まいの地域の電源電圧についてのお問い合わせは、N°5805/N°5802 を AC 電源コンセントに差し込む前に、マークレビンソン現地販売店までお問い合わせください。

警告！オーディオシステム内のあらゆるコンポーネントが適切に接地されていることを確認してください。「接地リフター」あるいは「チーター」の類のアダプターを使用することは、電極または接地タイププラグの安全取扱上の目的を顧みない行為となります。コンポーネント間に危険な電圧が蓄積され、怪我および/または製品の損傷につながる恐れがあります。

注意：N°5805/N°5802 は、卓越したパワーレベルで驚異的なサウンドをご提供する製品です。リスニング環境や、使用するスピーカーの要求とアンプの数に応じて、電気サービスがお使いのシステムの性能を制限する可能性があります。

このような場合は、システム専用の AC 回路を取り付けることを検討してください。お使いのシステムに複数の AC 回路で電力供給する場合は、有資格電気技師にお問い合わせの上、すべてのコンポーネントが同じ堅牢な低インピーダンスの接地基準で動作していることを確認してください。

雷雨の際、あるいは長期間使用しない場合は、N°5805/N°5802 を AC コンセントから抜いてください。

警告：本機を移動する場合は、その前に電源コードを AC 電源コンセントと背部パネルから外し、電源がオフになっていることを確認してください。

動作状態

N°5805/N°5802 には 3 つ動作状態があります。

オフ： 背部パネルから電源コードを抜き、AC 主電源を切った状態です。

スタンバイモード： スタンバイモードには、[セットアップ]メニューから選択できる 3 つの設定があります。グリーン、省電力、通常モードです。(スタンバイモード設定の変更に関する詳細は、22 ページを参照してください。)

グリーンモード： このモードでは、アンプのほぼすべての回路の電源を落とします。IR コントロール信号、5V ~ 12V トリガ、または Standby ボタンの 2 重押しでのみ、本製品をオンに戻すことができます。このモードは最大レベルの電力節約となります。、工場出荷時のデフォルトのスタンバイモードです。

省電力モード： このモードでは、オーディオ回路の電源を落としますが、コントロール回路に電力が供給され、フロントパネルのコントロール、リモートコントロール、あるいは web ブラウザのグラフィックユーザーインターフェイス (GUI) からのコマンドを受信することができます。このモードでは、中程度の電力節約となります。

通常モード： このモードでは、ディスプレイの電源が落とされ、オーディオ出力をミュートにしますが、コントロール回路およびオーディオ回路すべてに電源が供給されます。このモードでは、電力の節約は最小限となりますが、N°5805/N°5802s オーディオ回路は常に最適なパフォーマンスを提供するために、ウォームアップ状態にしたままにすることができます。

オン： 本機全体に電源が供給され、構成されたすべての出力がアクティブになります。

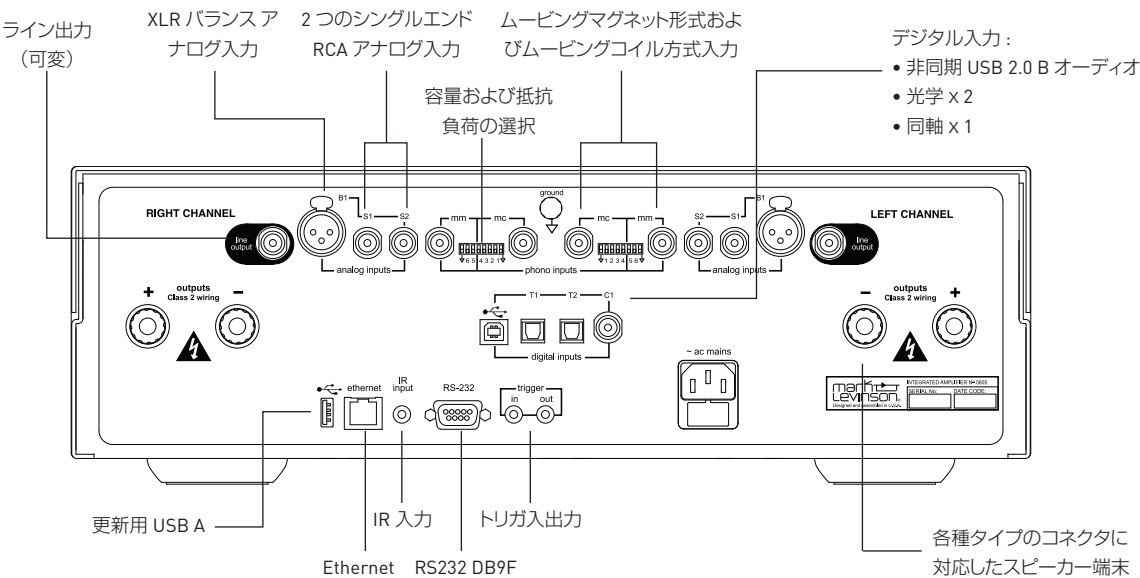
自動機能： 本機は、記録のグリーンモードまたは省電力モードのとき、オーディオ出力が検出されない場合、自動的にスタンバイモードに入ります。

工場出荷時の設定は、特定の地域に応じてグリーンスタンバイモードまたは自動機能に設定されています。オーディオ機能はセットアップメニューで無効にすることができます。この設定は電源参照

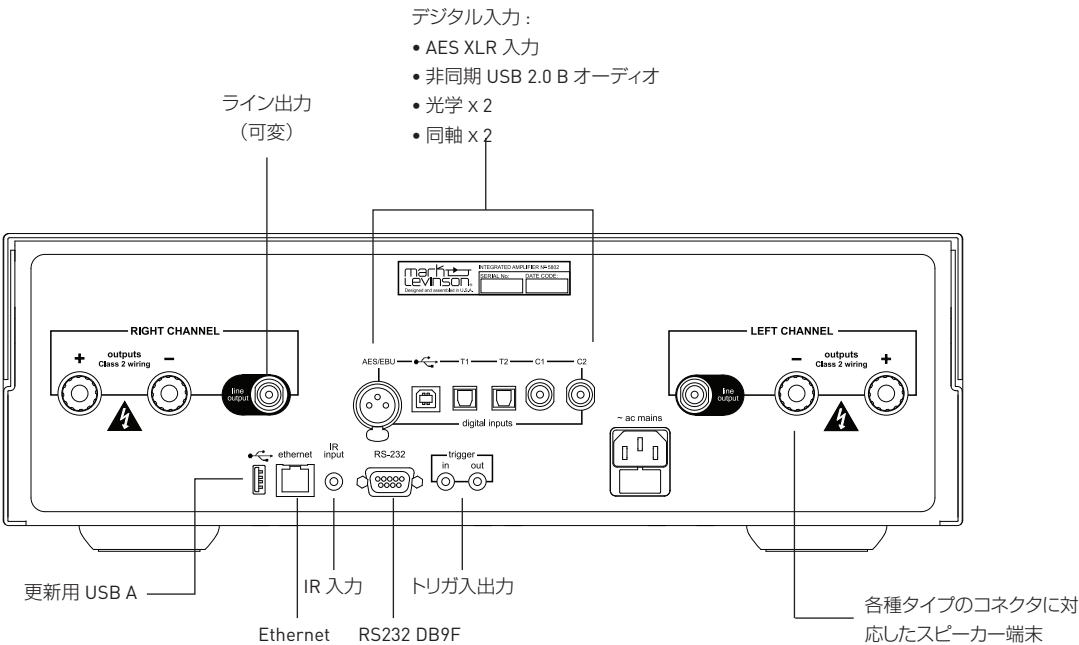
通常モードでは自動機能は無効です。

接続

N°5805 背部パネルの概要



N°5802 背部パネルの概要



外部コンポーネントの接続

警告:接続する前に、N°5805/N°5802 およびすべての関連コンポーネントの電源がオフになり、コンセントが外されていることを確認してください。

左右チャンネルスピーカー用バインディングポスト: N°5805/N°5802 は、金メッキ、高電流スピーカー用バインディングポストを利用しています。+ 極バインディングポストは + (陽極) 表示で赤色、- 極バインディングポストは黒色で、- (陰極) 表示されています。バインディングポストには、錫メッキなしの裸線、スプードラグ、およびバナナプラグで終端されたスピーカーケーブルに対応します。

警告:バインディングポストは締め過ぎないでください。バインディングポストのナットを曲がったコネクタやサイズが合わないコネクタに無理に押し込まないでください。バインディングポストを損傷する恐れがあります。

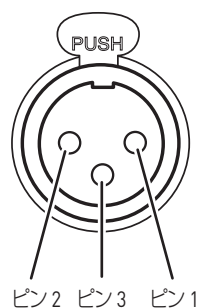
お使いのスピーカーを N°5805/N°5802 のスピーカー用バインディングポストに接続します。16 ゲージまたは大型スピーカーワイヤを使用して、最高の忠実度のパフォーマンスを確保します。スピーカーの陽極 (+) 端子を N°5805 の陽極 (+) 赤色バインディングポストに、スピーカーの陰極 (-) 端子を N°5805 の陰極 (-) 黒色バインディングポストに接続します。正しい極性 (+/+, -/-) に従わず、スピーカーを位相をずらして接続しないと、低音のレスポンスが悪くなり、ステレオイメージングが不鮮明になります。

警告:陽極と陰極出力を短絡させないように注意してください。陽極または陰極出力はシャーシあるいはその他の安全接地に短絡させないでください。

注意: このパワーアンプのオーディオ出力は北米ではクラス 2 (CL2) 回路とみなされます。すなわち、このアンプとスピーカーとの間に接続されるワイヤは、クラス 2 (CL2) 以上であること、米国電気工事規程 (NEC) 第 725 条またはカナダ電気工事規程 (CEC) 第 16 項に従って取り付けられていることを意味します。

MainDrive ヘッドフォン出力 (フロントパネル) 1/4" TRS [Phone] プラグまたはアダプターを備えたヘッドフォンを接続してください。ヘッドフォンを差し込むと、スピーカーとライン出力がミュートになります。

バランスアナログ入力 (N°5805 のみ): これらのコネクタは、バランス型 (オス型 XLR) 出力コネクタを備えたソースコンポーネントから、左チャンネルと右チャンネルのバランス入力信号を受け取ります。



バランス入力コネクタ
(雌 XLR)

バランスコネクタピン割り当て:

ピン 1: シグナルグラウンド

ピン 2: 信号 + (非反転)

ピン 3: 信号 - (反転)

コネクタ接地端子: シャーシ接地

シングルエンドアナログ入力(N^o5805 のみ): N^o5805 には、チャンネルごとに2つのアナログ RCA 入力コネクタ(ラベル S1 および S2)があり、アンバランス RCA タイプの出力コネクタを備えたソースコンポーネントからの左チャンネルおよび右チャンネルのシングルエンド入力信号を受け入れます。

フォノ入力(N^o5805 のみ): N^o5805 には、チャンネルごとに2つのアナログフォノプリアンプ入力(ラベル MM および MC)があり、左チャンネルと右チャンネルのムービングマグネット(MM)およびムービングコイル(MC)のフォノカートリッジ入力信号を受け入れます。

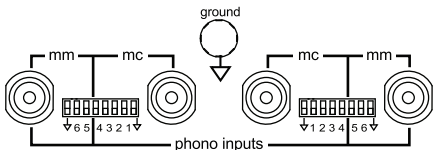
ムービングコイルカートリッジを搭載したターンテーブルを MM 入力に接続します。ムービングコイルカートリッジを搭載したターンテーブルを MC 入力に接続します。N^o5805 はターンテーブルを1つだけ接続することができます。ターンテーブルに接地線が付いている場合は、接地用ネジに接続します。


フォノ入力に隣接する白色の DIP スイッチは、ムービングコイルカートリッジの入力抵抗とムービングマグネットカートリッジの入力容量を設定します。設定を正しく選択することが、ターンテーブルが最高のパフォーマンスを発揮するためには不可欠です。推奨される負荷設定については、カートリッジのオーナーズマニュアルを参照してください。必要に応じてスイッチを上げ下げするには、宝石職人用のドライバーなど、小型の工具を使用してください。工場出荷時のデフォルトでは、すべてのスイッチが下の位置にあります。下図に従って、正しく設定を行ってください。指定された設定に最も近い設定を選択してください。例えば、指定された MC の負荷が 100 Ω の場合は、110 Ω の設定を使用します。


警告:DIP スイッチの再設定中は、音量を非常に低いレベルに設定する必要があります。


警告:ターンテーブル以外のソースコンポーネントにはフォノ入力を使用しないでください。

負荷スイッチ							負荷値
ムービングコイル					ムービングマグネット		
1	2	3	4		5	6	
↓	↓	↓	↓		x	x	1000Ω
↓	↓	↓	↑		x	x	500Ω
↓	↓	↑	↓		x	x	250Ω
↓	↓	↑	↑		x	x	200Ω
↓	↑	↓	↓		x	x	125Ω
↓	↑	↓	↑		x	x	110Ω
↓	↑	↑	↓		x	x	90Ω
↓	↑	↑	↑		x	x	82Ω
↑	↓	↓	↓		x	x	62Ω
↑	↓	↑	↓		x	x	52Ω
↑	↑	↓	↓		x	x	43Ω
↑	↑	↑	↑		x	x	37Ω
x	x	x	x		↓	↓	20pF
x	x	x	x		↓	↑	70pF
x	x	x	x		↑	↓	120pF
x	x	x	x		↑	↑	170pF



フォノ入力はバランスがとれています。接地スイッチ  を上の位置に設定すると、接地への入力を基準とします。この設定は、過度のノイズやハムがある場合に便利です。

デジタル入力(N°5805): N°5805 には、1 つの非同期 USB-B (USB アイコン表示 )、2 つの光学(TOSLINK) S/PDIF 接続(T1 と T2 の表示) および 1 つの同軸(RCA) S/PDIF 接続(C1 の表示)の 4 つのデジタルオーディオ入力コネクタがあります。

デジタル入力(N°5802): N°5802 には、以下の 6 個のデジタルオーディオ入力接続が備えられています。AES/EBU 形式の XLR 接続(AES/EBU の表示)、非同期 USB-B デジタルオーディオコネクタ(USB アイコンの )、2 つの光学(TOSLINK) S/PDIF コネクタ(T1 と T2 の表示)、および 2 つの同軸(RCA) S/PDIF コネクタ(C1 と C2 の表示)。

USB ポート: この USB Type-A コネクタを使用すると、将来提供される可能性のあるファームウェアの更新を実行したり、標準の USB ドライブまたはメモリスティック(FAT32 形式)経由でセットアップ構成をインポートおよびエクスポートすることができます。ファームウェアの更新は、本機が Ethernet ケーブルでローカルエリアネットワーク(LAN)に接続されている場合、ダウンロードして実行することもできます。(ファームウェアの更新方法に関する詳細は、24 ページを参照してください。)

Bluetooth: Bluetooth 対応スマートデバイスを N°5805/N°5802 とペアリングして、オーディオコンテンツを、ワイヤレスでストリーミングすることができます。統合 Qualcomm® aptX™-HD オーディオは、お使いの Bluetooth® ワイヤレス対応デバイスによる高品位(HD) オーディオの配信を保証します。(Bluetooth のペアリング方法に関する詳細は、19 を参照してください。)

ライン出力コネクタ: これらの RCA ジャックから、選択した入力をゾーン 2 のスピーカーに接続されたアンプ、または録音機器への送信に使用可能なラインレベルの左チャンネルおよび右チャンネルの信号を供給します。

注意: ライン出力は可変です。「音量」、「バランス」および「ミュート」のコントロール設定に従います。

Ethernet ポート: この RJ45 ジャックは、Cat5e または CAT6 Ethernet ケーブルを経由してホームネットワークへの接続を

サポートし、ブラウザベースのセットアップパネルから、[セットアップ]メニューおよびその他コントロールにアクセスすることができます。

IR 入力コネクタ: このコネクタは、他の機器からの IR (赤外線) コントロール信号を受け取ります。IR コードデータについては、www.marklevinson.com を参照してください。

RS-232 ポート: この DB9F コネクタは、標準 RS-232 プロトコルによるシリアルコントロールを提供します。RS232 コードデータについては、www.marklevinson.com を参照してください。

トリガ出力コネクタ: この 3.5mm チップ/スリーブコネクタは、オーディオシステムやリスニングルームの他のコンポーネント、例えば、アンプ、照明、ウインドウシェード等をオンにするために使用することができます。12V 100mA DC 信号は、N°5805/N°5802 の電源がオンのときは常に出力されます。(下図を参照してください。)



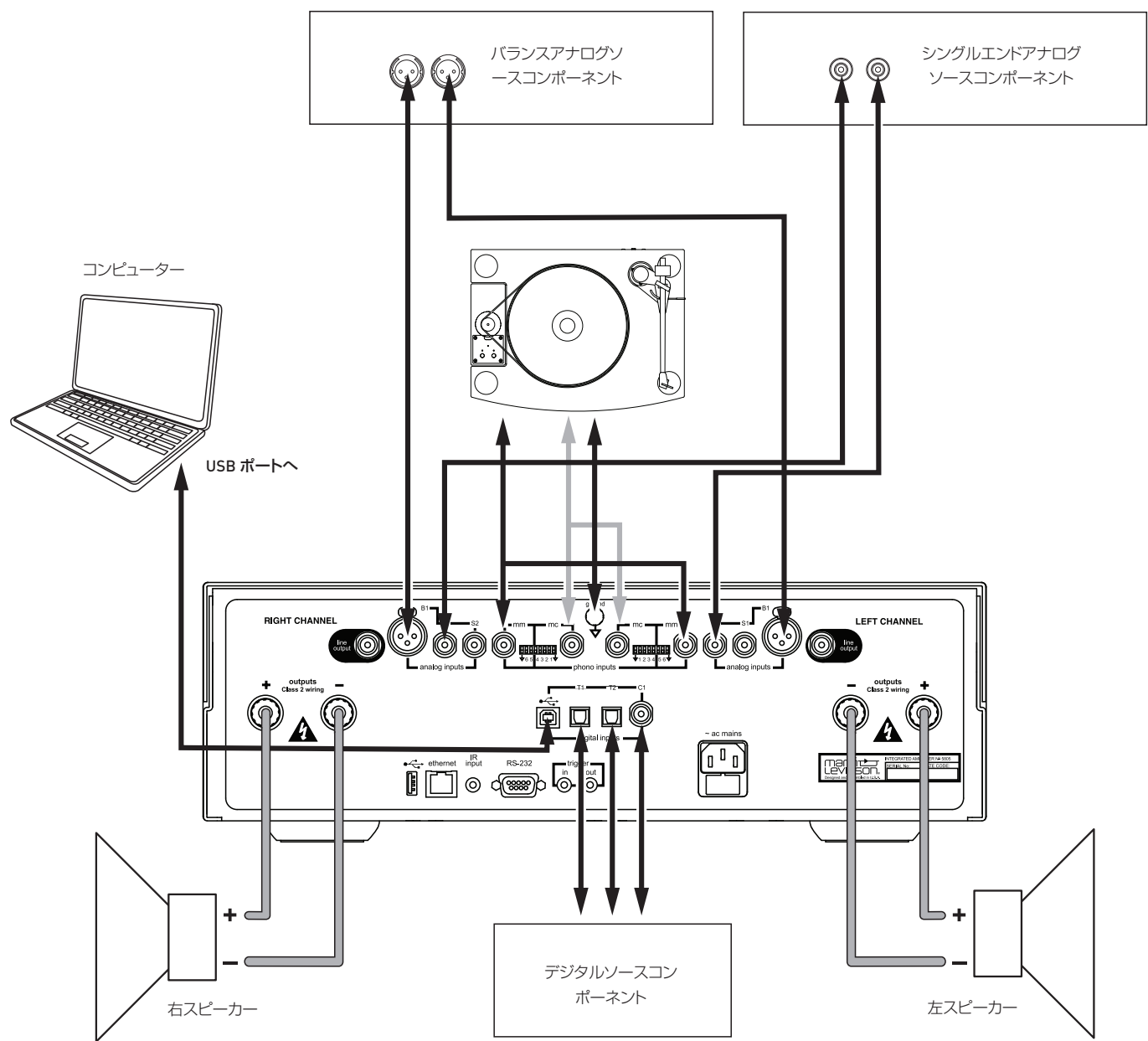
トリガ入力コネクタ: この 3.5mm チップ/スリーブコネクタは、トリガ電圧を供給するその他のシステムコンポーネントまたはコントロールシステムのトリガ出力に接続することができます。本機は、この接続で 5V から 12V DC の電圧を検出すると、常にオンになります。この接続でトリガ信号が止まると、N°5805/N°5802 はスタンバイモードとなります。(上の図を参照してください。)

AC 主電源コネクタ: このコネクタは、付属の電源コードを AC コンセントに接続すると、N°5805/N°5802 に AC 電力を供給します。この接続は機器の接続作業の最後の作業であるべきです。

雷雨時や長期間使用しない場合は、AC 電源コンセントから本機を抜くことをお勧めします。

注意: すべてのソースコンポーネントを N°5805/N°5802 に接続した後、[セットアップ]メニューを使用して、すべての未使用の入力名を「Disable」に設定することをお勧めします。これで、未使用の入力を利用可能な入力候補から削除し、入力をスクロールする際にスキップします。(詳細は、18 ページのセットアップ/入力を参照してください。)

接続



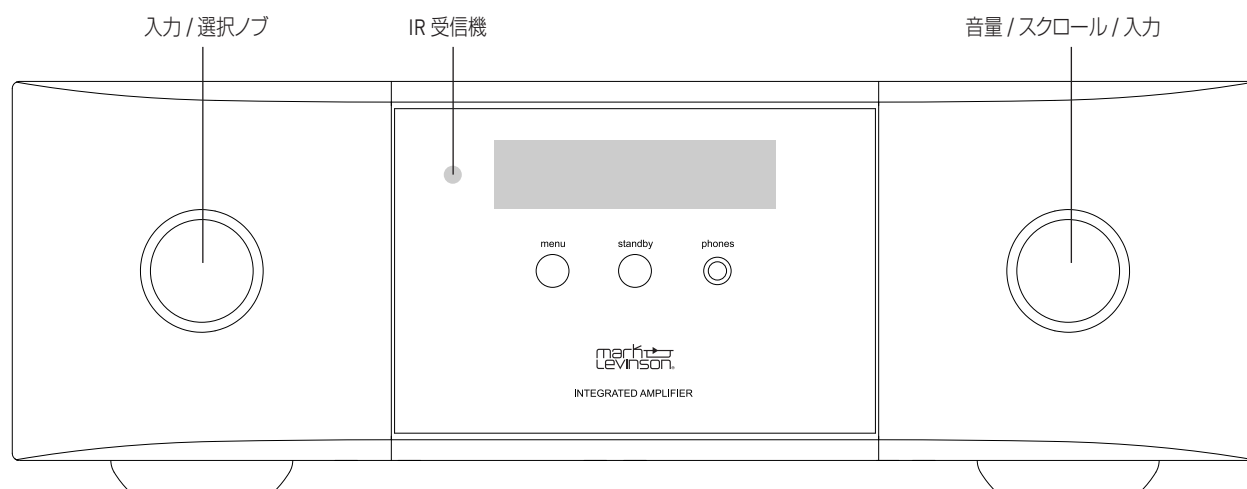
クイックリスニング

1. 付属の電源ケーブルを N°5805/N°5802 の AC主電源コネクタと電源コンセントに接続します。N°5805/N°5802およびすべてのソースコンポーネントの電源をオンにします。
2. N°5805/N°5802のフロントパネルの[Standby]ボタンを押すか、リモートコントロールでオンにします。
3. N°5805/N°5802の[入力 選択]ノブを回すか、リモートの[選択+/-]ボタンを押して、聴きたいソースコンポーネントの入力を選択します。
4. N°5805/N°5802 の音量が適切なレベル(30 が適切な始点です)に設定されていることを確認します。
5. 選択したソース機器の再生を開始します。
6. 楽にくつろぎながら、マークレビンソンのハイパフォーマンスなオーディオシステムの卓越した臨場感をお楽しみください。
7. 新しいアンプで最高のパフォーマンスと利便性を引き出す方法についての詳細は、引きつづきマニュアルをお読みください。決して後悔なさらないでしょう。

コントロール

N°5805/N°5802 は非常に柔軟性が高く、フロントパネルのコントロールノブ、IR リモコン、サードパーティコントロールシステムとの統合など、多様な設定およびコントロール方法が提供されます。さらに、PC またはタブレットや標準 web ブラウザを使用して、内部 web ページで、設定の構成、インポートおよびエクスポート、またファームウェアの更新が可能です。

フロントパネルの概要



N°5805/N°5802 は、人間工学を考慮したエレガントかつシンプルなデザインです。そのため、ノブは、動作モードに応じて多様な機能を実行します。ノブにはリスニングモード、セットアップモードの2つの操作モードがあり、さらに、グリーン、省電力、通常の3つのスタンバイモードがあります。

このセクションをよくお読みになり、作動モードについて時間をかけて確認してください。セットアップモードに入る前に、音量は低音あるいはずっと下げざることを強くお勧めします。

スタンバイボタンとLED: このボタンを押して、N°5805/N°5802 をスタンバイモードにしたり、終了させたりすることができます。本機の電源がオンになると、LED が赤色に点灯します。本機がスタンバイ状態の場合は、LED はゆっくりと点滅します。

入力/選択ノブ: リスニングモード中に、このノブを回転させて、すべての出力に送信したいソース信号を選択します。フロントパネルのディスプレイには、選択した入力ソース名と音量レベルが表示されます。(注意: [選択]ノブは、セットアップモードで入力名のパラメータを「無効」と設定した入力信号は、すべてバイパスします。セットアップモードでは、このノブを回して、メニューの選択肢をスクロールします。

IR 受信機: IR 受信機は、背部パネルの IR 入力を使用されていないときは、付属のリモートコントロールからコマンドを受信します。

メニューボタン: このボタンを押すと、[セットアップ]メニューが表示され、このボタンを使用して N°5805/N°5802 を他のシステムコンポーネントや個別設定に合わせてカスタマイズすることができます。このボタンでは、メニューパラメータの深度が2レベル以上となる場合に、「戻る」機能を実行します。

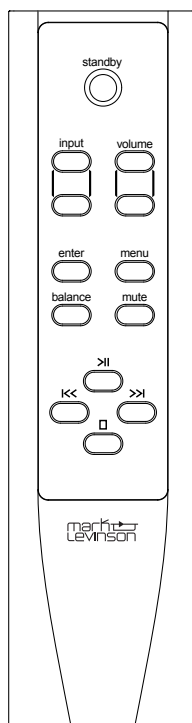
ヘッドフォン出力: 1/4 インチのチップ/リング/スリーブ [Phone] プラグまたはアダプタを備えたヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンをスピーカーに差し込むと、ライン出力はミュートになります。

音量/スクロール/入力: このノブは、ロータリーエンコーダとスイッチです。リスニングモードでは、このノブは、音量調節の役割を果たします。ノブを回して、音量レベルを調節します。[メニュー]ボタンを押して、セットアップモードに入ると、このノブで設定オプションをスクロールしてボタンを押すと、表示された選択肢を選択あるいは選択解除します。リスニングモードでは、[入力]ボタンでデジタル入力のサンプリングレートを表示します。サンプリングレートとあわせて「MQA」または「MQA.」が表示される場合は、製品が MQA 形式のストリーミングかファイルをデコードして再生していることを示します。「MQA.」は、MQA Studio 形式のファイルが再生されていることを表します。この形式は、スタジオでアーティストまたはプロデューサーによって、あるいは著作権保有者によって承認されていることを示します。

フロントパネルディスプレイ: 最高 32 文字の英数字を表示するディスプレイは、N°5805/N°5802 の作動ステータスに関する情報を提供します。通常の作動時は、選択した入力ソース名と音量レベルが表示されます。

リモートコントロール

リモートコントロールの概要



スタンバイモード: このボタンを押して、N°5805/N°5802 をスタンバイモードにしたり、終了させたりすることができます。このボタンを2回押すと、本機がグリーンのスタンバイモードから起動します。

Input +/-: これらのボタンを押して、利用したい入力ソースを選択します。リレーが切り替わるまで少しかかります。入力ソース名と音量レベルがフロントパネルディスプレイに表示されます。[入力 +/-] ボタンも、セットアップモードでの機能選択に使用します (16 ページを参照してください)。

Volume +/- ボタン: これらのボタンを押して、スピーカー、ラインおよびヘッドフォン出力の音量レベルを調節します。最小音量レベルは 0 で、デフォルトの最大音量レベルは 80 ですが、この数値は [セットアップ: [音量] メニュー] で変更できます (21 ページを参照してください)。

Menu: このボタンを押して、[セットアップ] メニューを表示します。このメニューで、N°5805/N°5802 をカスタマイズし、お使いのシステムおよび環境を適切に設定することができます。[セットアップ] メニューが有効になると、フロントパネルディスプレイに「セットアップ」と表示されます。このボタンでは、メニューパラメータの深度が 2 レベル以上となる場合に、「戻る」機能を実行します。

Mute: このボタンを押して、スピーカー、ライン、ヘッドフォンの出力を、[セットアップ] メニューで指定した量 (デフォルト値は -40dB) に消音したり、消音を解除します。ミュート機能を有効にすると、フロントパネルディスプレイに「Mute」と表示されます。

Enter: セットアップモード時に、このボタンを押してメニューアイテムを選択または選択解除します。

Balance: このボタンを押して、左右チャンネルバランスを設定します。<- - L/R - -> の記号がフロントパネルディスプレイに表示されます。バランスを変更するには、[音量 +] ボタンを使用して、チャンネルバランスを右に 1dB 単位でシフトさせます。[音量 -] ボタンを使用して、チャンネルバランスを左にシフトさせます。シフトできるのは最大 -20dB で、その後は逆チャンネルのオフへと続きます。

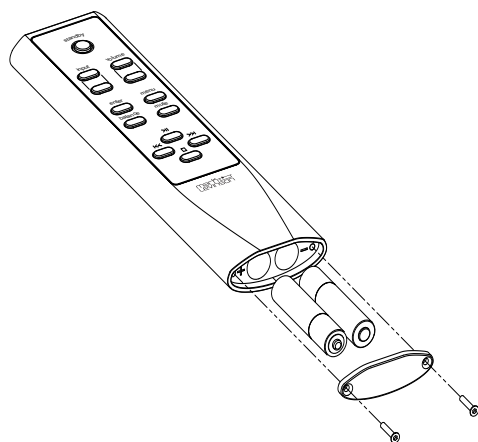
バランスモード中は、他の調整機能は作動しません。バランスモードを終了するには、[Balance] ボタンを 1 秒間押します。

Bluetooth トランスポートコントロール: Bluetooth のソースを利用する際、互換性のあるアプリを使用している場合は、このボタンでそのアプリのナビゲーションをコントロールすることができます。

リモートコントロールの操作

電池の取付

お使いの N^o5805/N^o5802 リモートコントロールには、AAA(単 4 形) アルカリバッテリーが 2 本付属しています。電池を入れるには、付属の六角工具を使用してバッテリーカバーを外し、電池を挿入してから、バッテリーカバーを戻し、六角ネジを締めます。正しい電極で電池を取り付けたかを確認してください。



リモートコントロールの使用

リモートコントロールは本機のフロントパネルの IR 受信機の方
向に向けて使用します。家具など、リモコンと受信機の上に遮断
物がないことを確認します。明るい照明、蛍光灯やプラズマビデ
オディスプレイは、リモコンの正常な機能の妨害となる場合があ
ります。

- リモコンの最大有効範囲は17 ft (5m) ですが、照明の条件によ
って変化することがあります。
- リモコンの感応範囲は、本機の左右最大45°の角度となります。
- アンプを着色ガラスの後ろに置くと、リモートコントロールの
感応範囲が狭まります。

リモートコントロールの反応が不安定になる場合は、電池を 2 本
とも新しいものと交換してください。

ブラウザのセットアップページ (BSP)

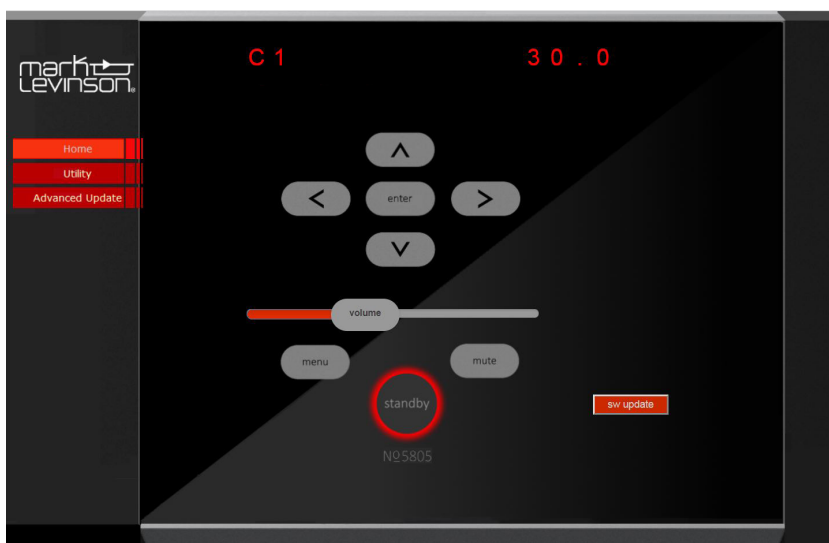
BSP は、セットアップ機能を実行したり、動作不良や温度を監視するために、お使いのアンプのファームウェアを最新なものに維持するための非常に便利な手段です。PC またはタブレットで主要な Web ブラウザを使用してアクセスすることができます。BSP にアクセスするには、まず本機をローカルエリアネットワーク(LAN)に接続する必要があります。すぐに LAN に接続できない場合は、他のセットアップとコントロール方法も用意されています。詳細は、本マニュアルを参照してください。

- N°5805/N°5802 の背部パネルのEthernetポートに、カテゴリ 5e またはカテゴリ 6 の Ethernet ケーブルを接続し、ホームネットワークのルーター、スイッチまたはハブの Ethernet ポートと接続します。
- **[セットアップ]メニューから[Advanced/Network/IP]を開き、お使いの機器のIPアドレスを入手します。**
- ご家庭のLANに接続されたPCまたはタブレットでブラウザを開きます。

- お使いのアンプのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
- アンプのブラウザセットアップパネルのホームページが画面に表示されます。
- BSPを使ったコントロール操作は直感的に使いやすく、フロントパネルやリモートコントロールと同じように利用できます。

注意: ネットワークのレイテンシのため、フロントパネルあるいはリモートコントロールの代わりに、BSP をリアルタイム音量、入力選択、あるいはその他のリスニングモード機能に使用することはお勧めしません。

注意: フロントパネルに表示される情報は、[ホーム]と[詳細更新]ページの上部にも表示されます。



セットアップ

セットアップメニューのナビゲーション

マークレビンソンのインテグレートッド・アンプのパフォーマンス、電力効率および利便性を高めるため、[セットアップ]メニューでカスタマイズおよび構成することができます。

[セットアップ]メニューにアクセスしてナビゲートするには、フロントパネルまたはリモートコントロールを使ってフロントパネルディスプレイを操作する方法と、ネットワーク対応機器のブラウザセットアップページを利用する方法との2通りあります。どちらの方法でも、手順は変わりません。

リモコンおよびフロントパネルの操作

[メニュー]ボタンを押すと、インテグレートッド・アンプのフロントパネルディスプレイに[セットアップ]が表示されます。[セットアップ]メニューが有効になっている間、[選択]ノブを使用してオプションをスクロールし、フロントパネルの[選択]ノブまたはリモコンの[入力]ボタンを使用してオプションを選択および選択解除し、[音量]ノブを使用してパラメータを調節します。メニューで1つ前のレベルに戻る(あるいは[セットアップ]メニューを終了する)には、必要なメニューが表示されるまで[メニュー]ボタンを、繰り返し押します。

ブラウザセットアップページ(BSP)の操作

インテグレートッド・アンプをホームネットワーク経由でPCまたはタブレットに接続し、ブラウザを開きます。N^o5805/N^o5802と同じネットワークに接続された主要なブラウザにお使いのアンプのIPアドレスを入力するだけで、数秒でBSPの画面が開きます。BSPの応答時間はネットワーク速度および接続の質に影響を受けます(N^o5805/N^o5802でIPアドレスを探す方法については、15ページを参照してください)。**[ホーム]画面には、上部近くに現在有効な入力名、スライダー表示の現在の音量レベル、そしてナビゲーションのコントロールが表示されます。また、[SW更新ボタン]ではFTPサイトからのワンタッチファームウェア更新機能を提供します。警告:ソフトウェアの更新を選択した場合は、プロセスを中断しないでください。**

[メニュー]アイコンをクリックして、セットアップモードを有効にします。[セットアップ]メニューが有効になったら、[左]◀と[右]▶の矢印を使用して、オプション間をスクロールし、[入力]アイコンでオプションを選択あるいは選択解除し、[上]↑および[下]↓矢印でパラメータを調節します。メニューで1つ前のレベルに戻る(または[セットアップ]メニューを終了する)には、必要なメニューが表示されるまで[メニュー]ボタンを繰り返し押します。

入力のセットアップ (5805)

Setup Menu	Input Setup
Input	B1 [アナログ XLR]
Volume	S1 (アナログ RCA)
Power	S2 (アナログ RCA)
Display	フォノ (アナログ)
Advanced	C1 (デジタル同軸)
	T1 (デジタル光学)
	T2 (デジタル光学)
	USB
	BT (Bluetooth)

Set Input X	
Name=XXX	すべての入力で利用可能
Offset=XXX	
SSP=On/Off	アナログ入力で利用可能
PCM Filter=XXX	デジタルおよび Bluetooth 入力でのみ利用可能
PLL Lock= Normal/Wide	
Upsample=On/Off	USB入力で利用可能
DSD Filter= XXX	
BT Name	Bluetooth入力でのみ利用可能
BT Pairing= Enable/Forget	
Ph Balance= +/- 3dB	フォノ入力でのみ利用可能
Infra Filt = On/Off	
Phono Type= MM/MC	

入力セットアップ (5802)

Setup Menu	Input Setup
Input	AES [デジタル XLR]
Volume	S1 (アナログ RCA)
Power	C2 (デジタル同軸)
Display	T2 (デジタル光学)
Advanced	T2 (デジタル光学)
	USB
	BT (Bluetooth)

Set Input X	
Name=XXX	すべての入力で利用可能
Offset=XXX	
PCM Filter=XXX	
PLL Lock= Normal/Wide	
Upsample=On/Off	
DSD Filter= XXX	USB入力で利用可能
BT Name	Bluetooth入力でのみ利用可能
BT Pairing= Enable/Forget	

以下の設定はすべての入力で利用可能です:

名前: このオプションでは、選択した入力のプリセット名を指定することができます (CD、SACD™、DVD、Blu-ray™、DAC、EQ、など)。また、各入力につき、以下の名前が利用できます。

無効: このオプションでは、選択した入力を利用可能な入力のリストから除外します。入力をスクロールしている際に、これらの入力はスキップされます。

カスタム: このオプションでは、選択した入力のカスタム名を入力することができます。[選択] ノブを使用して、変更する文字を選択し、[音量] コントロールで、利用可能な文字のリストから選択し、[入力] ボタンを押して各文字を確定します。9 番目の文字を入力した後、新しい名前が保存されます。

ブラウザセットアップページ方法:

入力名を変更するもっとも簡単な方法は、BSP の [ユーティリティ] タブを選択することです。

最初のドロップダウンメニューから名前を変更する入力を選択します。これらの入力ソースは背部パネルの入力ラベルに対応しています。

次のドロップダウンメニューから代替名 (または [無効]、あるいは [カスタム]) を選択し、[OK] を押して保存します。

[スタム] を選択した場合は、テキストボックスにカスタム名を入力した後、[OK] を押して保存することができます。



オフセット: オーディオ機器の出力レベルは、ブランド別およびモデルによって異なる場合があります。機器によっては、他の機器より再生音が大きい場合、あるいは小さい場合があります。このオフセット調節機能は、接続された機器がすべて同様の音量レベルで再生されるように、ソース音量差を正確に補正することができます。設定範囲は、-12.0dB ~ +12.0dB で、0.5dB の単位が 1 段階となります。

デジタルおよびBluetooth入力のみで利用可能な設定は以下のとおりです。

PCM フィルタ: この設定では、CD プレイヤーからのデジタル出力など、PCM デジタルコンテンツ向けのフィルタ特性を選定することができます。通常聴くタイプの音楽など好みの音楽で、いくつかフィルタを試すことをお勧めします。選択に正しいも間違いもありません。

利用できるフィルタは以下のとおりです。

- アポダイズ ファスト
- ハイブリッドファスト
- ブリックウォール
- ファストリニア
- スローリニア
- スローミニマム
- ファストミニマム

「ファスト」フィルタは、高周波数での急峻なロールオフとなり、不要な高周波の「折り返し(エイリアス)」の発生をいっそう減衰させることができます。ただし、その結果、信号の過渡時にリングングが発生しやすい傾向にあります。

「スロー」フィルタでは、過渡時のリングングは減少しますが、不要な高周波数信号を減衰させる弱点があります。

「リニアフェーズ」フィルタでは、対称的なプリリングングとポストリングングが発生します。つまり信号過渡前後にリングングが発生します。

「ミニマムフェーズ」フィルタでは、信号の後でのみリングングが発生しますが、これはリスナーによっては自然音と感知される場

合もあります。ただし、リングング時間は「リニアフェーズ」フィルタよりも長くなります。

「ハイブリッド」フィルタは、「リニアフェーズ」と「ミニマムフェーズ」の特性の一部が融合され、プリリングングを減らして高周波減衰量を減衰させます。

「アポダイジング」は、「リニアフェーズ」特性と、プリリングング・ポストリングング低減技術とが融合したフィルタです。

「ブリックウォール」フィルタは、不要な高周波数エイリアス信号が減衰されることのみを目的に最適化されています。

アナログ入力 B1、S1、S2 (N^o5805 のみ) には以下の設定が可能です。

SSP: SSP 設定では、マルチチャンネルサラウンドサウンドプロセッサとの統合のために選択されたアナログ入力の構成を行います。デフォルト設定は、「オフ」です。「オン」を選択すると、ユニティゲインで出力に信号を送り、音量調整が無効になります。(詳細は、27 ページの SSP セットアップを参照してください。)

PLL ロック:

ノーマル - これは、PLL ロックのデフォルト設定で、ほとんどのソースに適切な設定です。

ワイド - ノイズや信号のドロップアウトがある場合にこの設定を選択します(ケーブル TV 上の機器など高ジッタ発生源による可能性が最も高い)。

アップサンプリングオン/オフ:

「アップサンプリング」は、デジタルオーディオ信号の実効サンプリングレートを向上させるプロセスです。ユーザーが N^o5805/N^o5802 でこのオプションを選択すると、44.1、88.2、または 176.4kHz での信号が 352.8kHz までアップサンプリングされ、48、96、および 192kHz での信号が 384kHz までアップサンプリングされます。これらの低解像度信号は本来、毎秒のサンプル数が少ないため、より高解像度信号に存在する追加のサンプルを完全に再生成することは、理論上はできません。ただし、N^o5805/N^o5802 の高度アップサンプリングアルゴリズムでは、これらの追加データポイントに非常に高度に近づけることができるため、ほとんどのプログラム素材で、優

た主観的改善効果を提供します。ユーザーによるデジタルフィルタの選択と同様、アップサンプリングを有効にするか無効にするかについても、どちらが「正しい」あるいは「間違っている」ということはありません。これは完全に好みの問題です。

「オフ」を選択すると、オリジナルのサンプリングレートが維持されます。

BT ペアリング:

[有効]を選択し、[入力]を押して、Bluetooth のペアリングを開始します。Bluetooth デバイスでもペアリング手順を開始します。デバイス上に、ML580X の名前に続き、各機器に一意な 4 桁の識別番号が表示されます。これを選択してペアリングを完了します。

[解除]を選びペアリングを解除しデバイス情報を消去します。

BT名:

ここではペアリングをスキャンしたときに Bluetooth プレイヤーに表示される Bluetooth 名が表示されます。この名前を変更することはできません。

以下の設定は、非同期USB入力のみで利用できます。

DSD フィルタ: DSD フィルタの設定では、DSD 高解像度デジタルコンテンツ向けのローパスフィルタ特性を設定することができます。47kHz、50kHz、60kHz または 70kHz で始まるロールオフ特性から選択できます。様々なロールオフ特性の可聴効果は微妙であり、音楽コンテンツのタイプやお使いのスピーカーやヘッドフォンの高周波帯域幅によっても異なります。ご自分に最適なサウンドを生み出す DSD フィルタ設定を、いろいろ試しながら探ってください。

以下の設定は、N°5805 のフォノ入力でのみ利用できます。

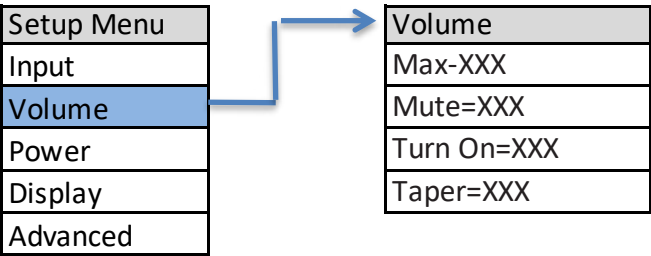
カートリッジタイプ: カートリッジの種類を、ムービングマグネット (MM) か、ムービングコイル (MC) にするかを選択します。

超音速フィルタ: このオプションでは、超音速「ランブル」フィルタをオンまたはオフに設定します。

バランス: このオプションでは、-3dB ~ +3dB までのフォノ入力に対して 0.5dB の単位でバランス調節を行います。

注意:すべてのソースコンポーネントを N°5805/N°5802 に接続した後、[セットアップ]メニューで、使用していないすべての入力名を「Disabled」に設定することをお勧めします。この設定によって、利用可能な入力のリストから未使用入力が除外されるため、ソース選択がより迅速に便利になります。

音量



音量設定では、N°5805/N°5802 の音量とミュート機能の動作をカスタマイズすることができます。

最大音量:この設定では、最大音量レベルを 40.0dB から 80.0dB までの間で 0.5dB 単位で設定します。工場出荷時のデフォルト最大音量は 80.0dB です。お使いのスピーカーの可聴音に歪みが出る少し下の音量に設定します。

ミュート: この設定では、[ミュート] ボタンを押す際のスピーカ一出力およびライン出力レベルの減衰量を -10dB から -80.0dB までの間で 0.5 dB単位で設定します。工場出荷時のデフォルト消音減衰設定は -40dB です。

電源オン: ここでは、電源をオンにした際の初期音量を設定します。電源をオンにした時の音量レベルを 10.0dB から 60.0dB までの間で 0.5 dB単位で、選択します。工場出荷時のデフォルト設定は 40.0dB です。

最新: 選択すると、電源オン時の音量レベルが最後に使用した際の音量レベルに設定されます。

警告:この電源オンのパラメータを「Last」に設定すると、最後に電源を切ったときに N°5805/N°5802 が高音量に設定されていた場合、電源オン時の音量が予想以上に大きな音量となる場合があります。

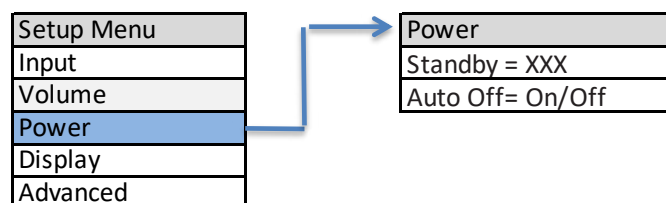
テーパー: この設定では、以下のオプションから、音量のコントロールで利用したいテーパーを選択することができます。

モード 1: 音量ノブを速く回転させるほど、音量が変化する速度が早くなります。ノブをゆっくり回すと、音量の変化速度も遅くなり、リスニングレベルを正確に調節できます。

モード 2:「Mode 1」と同様ですがレスポンスカーブが「より速く」ノブの同様の範囲での移動に対してゲインの変化が大きくなります。

モード 3: 音量を上げる際、小さい音量範囲では音量がすばやく変化し、高い音量では減速して精密な調整を行うことができます。音量を下げる際は、これとは反対の制御が働き、高音域では音量変化が早く、低音域では減速します。

電源



「電源」パラメータでは、電源関連の機能をカスタマイズすることができます。

スタンバイモード：このここでは、[スタンバイ]モードを以下のオプションのうちの1つに指定することができます。

グリーン：グリーンモードでは、ほぼすべての N^o5805/N^o5802 の回路の電源を落とし、信号、5V ~ 12Vトリガあるいは [Standby] ボタンを押したときのみ、本機をオンにすることができます。このモードは最大レベルの電力節約となります。、工場出荷時のデフォルトのスタンバイモードです。

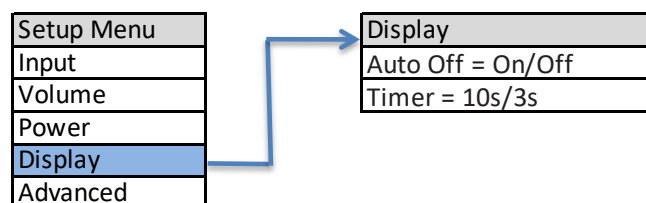
省電力モード：この省電力モードでは、N^o5805/N^o5802 のオーディオ回路の電源を落としますが、コントロール回路に電力が供給されたままで、いずれかのコントロール入力からのコマンドを受信できる状態にあります。このモードでは、中程度の電力節約となります。

通常モード：この通常モードでは、ディスプレイの電源が落とされ、オーディオ出力をミュートにしますが、コントロール回路およびオーディオ回路すべてに電源が供給されます。このモードでは、電力の節約は最小限となりますが、常に最適なパフォーマンスを提供するために、オーディオ回路はウォームアップ状態にしたままにすることができます。

自動オフ：この設定では、自動オフ機能を作動または作動解除に設定します。作動を指定すると、20 分間使用されない(オーディオ信号がないかユーザーのコントロール入力がない)場合に、N^o5805/N^o5802 は [Standby] モードになります。

「**通常モード**」(上記参照)では、**自動オフ機能は無効**となります。

ディスプレイ

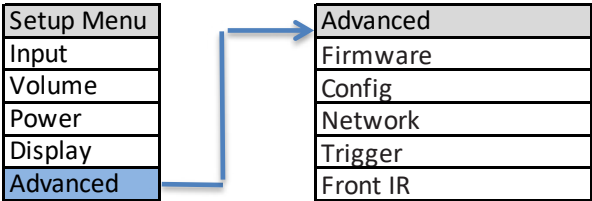


「ディスプレイ」機能では、フロントパネルディスプレイを常時オンにするか、選択可能な一定時間が過ぎるとオフにするかを選択します。

自動オフ：自動オフをオフに選択した場合、本機がリスニングモードである限りディスプレイが点灯したままになります。自動オフをオンに設定すると、3 秒、5 秒または 10 秒後にディスプレイがオフになります。

タイマー：タイマーでは、ディスプレイが 3 秒、5 秒、または 10 秒後のうち、どの時点でオフになるかを設定します。

詳細設定



[セットアップ]メニューの[詳細]セクションからは、様々な構成、管理設定および機能にアクセスすることができます。

ファームウェア: このメニューでは、以下のファームウェア関連の機能にアクセスします。

バージョン: [入力]を押して、現在作動中のファームウェアのバージョンを表示します。[入力]を1秒間押すと、バージョンの日付が表示された後、自動的にスクロールして更新パッケージの個別コンポーネントのバージョンが表示されます。(この設定画面では情報が提示されるのみで、ユーザー側の調整機能はありません。)

お使いの機器のファームウェアが最新かどうかをチェックするには、www.MarkLevinson.com で N^o5805/N^o5802 の製品ページを開き、[ダウンロード]タブを選択して最新のファームウェア更新ファイルを探します。より新しいバージョンがある場合は、下記オプションのうちいずれかを使用して、お使いのアンプの更新を行うことができます。お使いの機器のファームウェアのバージョンが web サイトに記載と同じ場合は、特に作業は必要ありません。

ブラウザセットアップページの方法:

ブラウザセットアップページで [詳細更新] タブを選択し、ページ下部の [FTP サイトに移動] ボタンを押して、利用可能なダウンロードのリストを確認します。各 txt ファイルをクリックし、それぞれのタイプのソフトウェアのバージョンを確認します。

No5805 DOWNLOADS		
Filename	Description	Download
No5805.s19	Control board firmware image file	No5805.s19
version.txt	Control board firmware information file	version.txt
No5805cpld.jbc	No5805 CPLD firmware image file	No5805cpld.jbc
No5805cpld.txt	No5805 CPLD firmware information file	No5805cpld.txt
No5805web.bin	No5805 web pages image file	No5805web.bin
No5805web.txt	No5805 web pages information file	No5805web.txt

更新: N°5805/N°5802 のファームウェアは、背部パネルの USB ポートに挿入したドライブまたは web ブラウザのどちらで、更新することができます。(ブラウザ接続に関するガイドは、15 ページのブラウザセットアップページ(BSP)をご覧ください。)

ENET: お使いの N°5805/N°5802 がホームネットワークに接続されている場合は、こちらを選択してください。本機がマークレビンソンのサーバーにアクセスして、最新のファームウェアをダウンロードします。ダウンロードおよびインストールの**プロセスには少なくとも 15 分が必要**です。また、プロセスを中断しないでください。本機のオペレーティングファイルのダウンロードとインストールには数ステップあり、その間、[スタンバイ]モードのオン・オフが繰り返されます。しばらくお待ちください。プロセスがほとんど終了した時点で、「起動しています…」、その後、「N°5805 の起動を準備しています…」、「ファームウェアバージョン [番号] (ファームウェアバージョン)…」、「起動準備中です ..」の順で表示されます。その後、本機は [スタンバイ] モードになります。スタンバイの LED が点滅し始めたら、本機がオンになるまでお待ちください。しばらくお待ちください。

(本機がネットワークに接続されていない時に [ENET] を選択すると、ディスプレイには「失敗しました」が表示され、ネットワークへの接続とファームウェアのダウンロードの作業に関する通知が表示されます。)

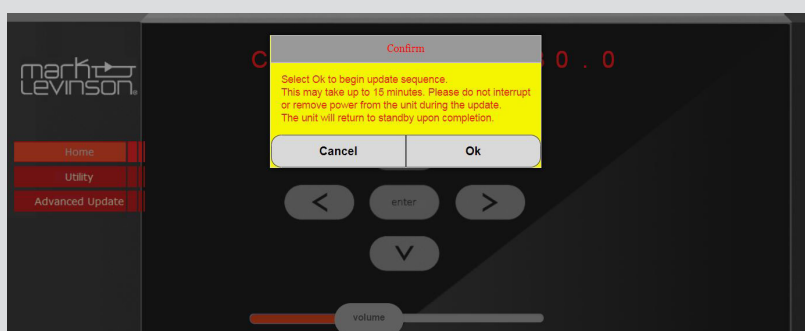
フラッシュドライブから更新する:

1. MarkLevinson.comの製品ページからファームウェアファイルをダウンロードし、USBドライブに保存します。
2. USBを選択し、[入力]を押します。
3. N°5805/N°5802 が USB ドライブを読み込みます。(ドライブを読み込んでいる間、ディスプレイには「更新をチェック」と表示されます。)
4. N°5805/N°5802 がドライブに有効なファームウェアファイルを見つけた場合、ディスプレイには「ダウンロード中」と表示されます。
 - N°5805/N°5802 がドライブに有効なファームウェアファイルを見つけない場合は、ディスプレイに「利用できません」と表示されます。

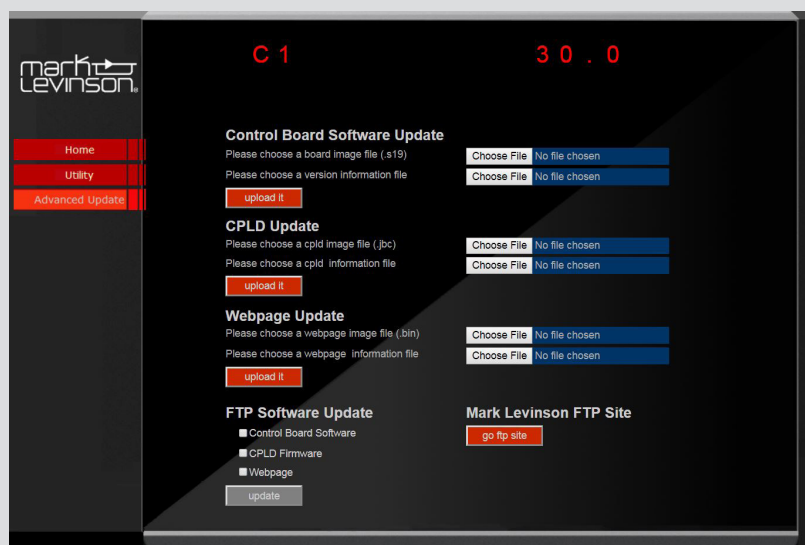
インストール プロセスには少なくとも 15 分かかります。中断しないでください。 本機のオペレーティングファイルのダウンロードとインストールには数ステップあり、その間、[スタンバイ]モードのオン・オフが繰り返されます。しばらくお待ちください。プロセスがほとんど終了した時点で「起動しています…」その後、「N°5805 (または N°5802) を開始しています…」、「ファームウェアバージョン [番号]…」、「起動しています ..」の順で表示されるので、終了が確認できます。その後、本機は [スタンバイ] モードになります。スタンバイの LED が点滅し始めたら、本機がオンになるまでお待ちください。しばらくお待ちください。

ブラウザーの方法:

お使いの機器がインターネットアクセスできるネットワークに接続されていることを確認してください。画面の[ホーム]タブを選択します。[ソフトウェア更新]タブをクリックします。確認を求められます。[OK]を押すと、本機の更新シーケンスがはじまります。しばらくお待ちください。この間、中断しないでください。これには最大 15 分かかる場合があります。終了したら、本機はスタンバイモードに戻ります。[取消]をクリックして、ホームページに戻ります。

**詳細更新:**

詳細更新ページ機能は、FTP サーバー、USB ドライブまたはお使いの PC ハードドライブから降個別のソフトウェアファイルをアップロードするのに使用します。エンドユーザーにこのページの使用が必要なことはほとんどありません。このページへのアクセスは、訓練を受けた設置者またはサービスプロフェッショナルが行ってください。



構成 : このメニューグループからは、セットアップ構成設定のロック、復元、インポートまたはエクスポートが可能です。

構成のエクスポート : [入力]を押して、すべてのセットアップ構成情報を、リアパネルの USB ポートに挿入したサムドライブにエクスポートします。その後、このデータは、他の N°5805/N°5802 機器の構成、あるいはお使いの機器をすぐに再構成できるように、バックアップ機能として使用することができます。機器の構成が希望どおり正確に完了したら、不測のイベントによりお使いの構成設定が消去されないように、構成エクスポートファイルをサムドライブに保存することを強くお勧めします。

構成のインポート : [入力]を押して、すべてのセットアップ構成情報を、リアパネルの USB ポートに挿入したサムドライブにインポートします。

構成ロック : ロックをかけ、セットアップパラメータが偶然変更されるのを防止します。工場出荷時のデフォルト設定はオフです。

構成の復元 : すべての N°5805/N°5802 パラメータを各工場出荷時のデフォルト状態に復元します。

ネットワーク : このメニューから、以下のネットワーク関連パラメータにアクセスできます。これは、お使いの機器をネットワークに接続して PC またはタブレットから制御部およびセットアップにアクセスしたい場合に便利です。

名前 : お使いの N°5805 ネットワーク名が N5805XXXX 形式 (X は、機器の一意 MAC アドレスの最後 4 文字を表します) で表示されます。入力選択制御を使用して、変更する文字を選択、音量調節を使用して、利用可能な文字間をスクロールします。

現在のゲートウェイ : ゲートウェイ IP アドレスが表示されます。この設定では情報が提示されるのみで、ユーザー側で調整できません。

DHCP: DHCP モード (ネットワーク自動構成) をオンまたはオフに切り替えることができます。工場出荷時のデフォルト動作はオンです。このモードがオフに設定されている場合、N°5805/N°5802 のスタティック PC およびサブネットアドレスを指定することができます。最新更新 (DHCP がオンに設定されている場合のみ利用可能) を選択すると、DHCP 構成が最新に更新され、お使いの N°5805/N°5802 に新しいアドレスが割り当てられます。この機能は、ネットワーク接続のトラブルシューティングのときに役立つ場合があります。

現在の IP: 工場出荷時に (あるいは DHCP または手動で設定した) お使いの N°5805/N°5802 に割り当てられている現在の IP アドレスが表示されます。この番号を、インターネットに接続されたブラウザのアドレス (URL) ラインに入力します。(この設定では情報が提示されるのみで、ユーザー側で調整できません。)

現在のサブネット : (DHCP または手動設定で) お使いの N°5805/N°5802 に割り当てられた現在のサブネットアドレスが表示されます。(この設定では情報が提示されるのみで、ユーザー側で調整できません。)

トリガー : この設定では 12V トリガーの構成を行います。注意: トリガー入力を使用すると、[Standby] ボタンが無視されます。

モード : これらの選択では、12V トリガー信号がどのように送受信されるかを確定します。

通常モード : デフォルト設定は他のほとんどのコンポーネントに有効です。

パルス : 製品 (以前の Mark Levinson コンポーネントのいくつか) によっては、パルストリガー信号が必要な場合があります。

Theater (No 5805): 選択すると、SSP 入力が選択されるときに 12V トリガー出力がアクティブになります。詳細については、「サラウンド サウンド プロセッサ (SSP) のセットアップ」セクションを参照してください。

オフ : トリガー入力 / 出力接続を無効にします。

遅延 : この設定では、トリガー信号がトリガー出力ジャックの通過を待機するスタンバイモードの完全終了後の時間長を決定します。選択できるのは 0 ~ 10 秒の間で、デフォルトでは 0 になっています。注記: N°5805/N°5802 がスタンバイモードになり、終了するまで数秒かかる場合があるため、ネットトリガー遅延時間は選択した数値より長くなります。

フロント IR: このメニューでは N°5805/N°5802 のフロント IR 受信機をオンまたはオフにできます。リアパネルの IR 入力を使用する場合は、フロント IR 受信機をオフにしてください。IP または RS232 からサードパーティ制御を使用し IR で制御しない場合は、IR 制御をオフにすることをお勧めします。-

増幅器を有効にする : オフを選択すると、プリアンプまたはヘッドフォンアンプとしてのみ機能するように、本機の増幅器セクションはオフになります。デフォルト値はオンです。

サラウンドサウンドプロセッサー (SSP) のセットアップ (N05805 にのみ適用)

SSP (サラウンドサウンドプロセッサー) モードでは、N05805 を多チャンネルのホームシネマ・システムにシームレスに統合できます。

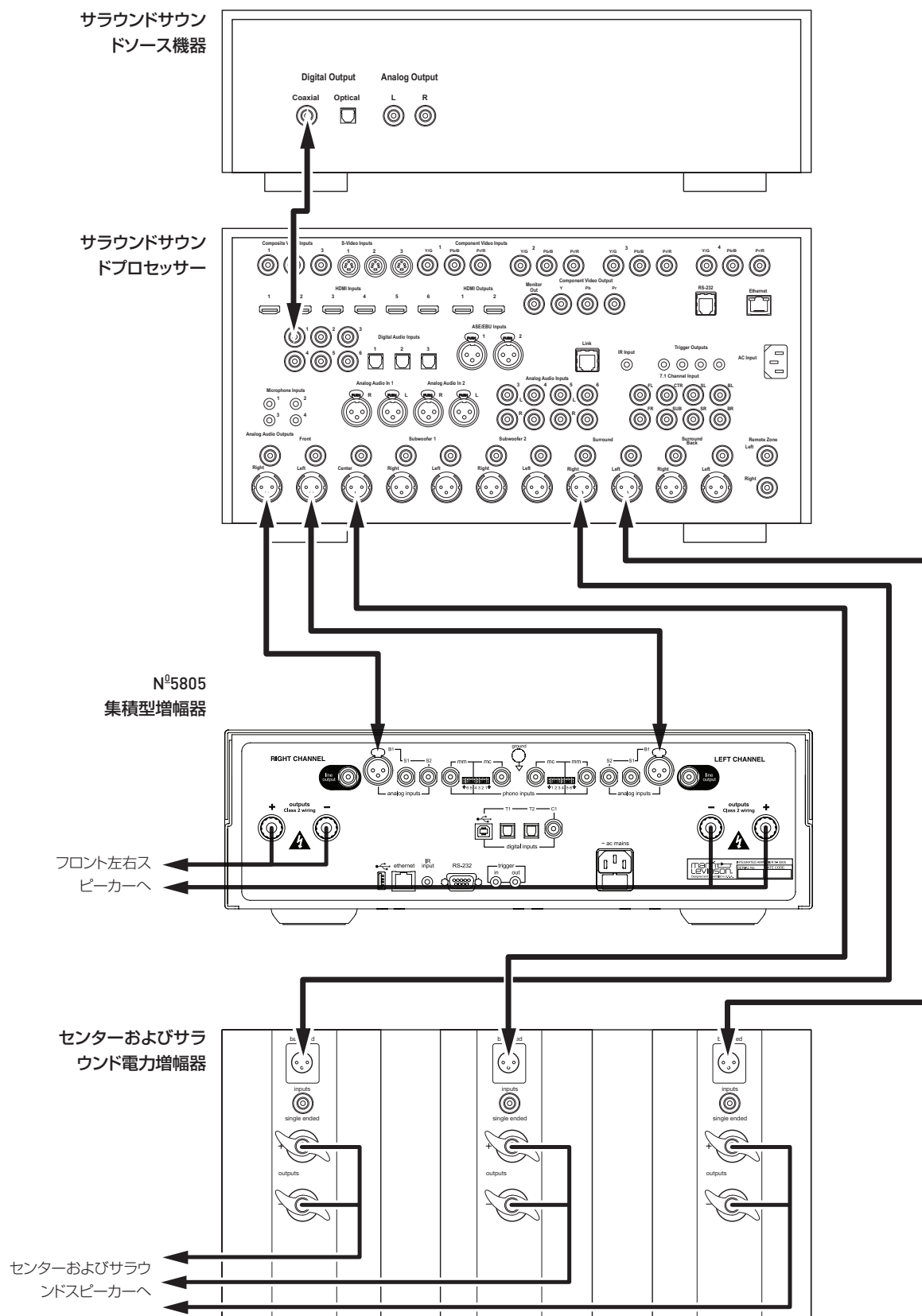
このモードをオンにすると、アナログ入力はいずれも、SSP 入力として指定できます。SSP モードを有効にすると、N05805 の音量調節は無効になり、レベルがユニティゲインで固定されます。これで、接続されているサラウンドサウンドプロセッサー (AVコントロールアンプもしくはAVアンプのプリアウト等) が、N05805 によって駆動される左右スピーカーをシステム内の他のスピーカーと同期する形で音量調節できるようになります。このモード中に実行され、サラウンドサウンドプロセッサーに保存された音場補正の EQ およびレベル設定は、変更されずそのまま維持されます。

警告： SSP モードにする前に、お使いのサラウンドサウンドプロセッサーの音量が最小まで下がっていることを確認してください。音量は必要にあわせて少しずつ上げ、そのあとで音場補正を行ってください。

先に、セットアップモードにして、SP に使用するアナログ入力に移動し、オンを選択します。N05805 をサラウンドサウンドプロセッサーと接続します。 (次ページのイラスト参照)。

1. N05805 および関連するコンポーネントがすべて電源オフで、電気コンセントから外してあることを確認してください。
2. サラウンドサウンドソースコンポーネントの出力コネクタをサラウンドサウンドプロセッサーの入力コネクタに接続します。例えば、ソースコンポーネントがBlu-rayディスクプレイヤーの場合、サラウンドサウンドプロセッサーの対応する入力コネクタに接続します。
3. プロセッサーのフロント左右出力コンポーネントをN05805 の所定アナログ入力コネクタに接続します。パフォーマンスを最適にするため、可能な場合、バランス接続を使用してください。注記: SSP操作に選択した入力を“Theater”や“Movies”などの名前に変更することをお勧めします。
4. プロセッサーのセンター、サラウンドおよびサブウーファ出力コネクタを、指定したパワーアンプの対応する入力コネクタに接続します。
5. N05805 のスピーカー出力をシステムのフロント左右 (最重要な) スピーカーに接続します。
6. サラウンドサウンドプロセッサーの指示にしたがって、システム補正を行います。
7. マルチチャンネルのコンテンツを楽しみたいときはいつでも、SSP入力として指定したアナログ入力を選択してお楽しみください。

セットアップ



トラブルシューティング

保護回路不良

N^o5805/N^o5802 に破損状態になる可能性がある場合、内蔵の保護回路構成が増幅器をシャットオフにして、フロントパネルディスプレイには、下記のエラーメッセージのいずれかが表示されます。対処方法 欄の指示にしたがって、その状態を修正してから、N^o5805/N^o5802 を再試行してください。

エラーメッセージ	問題	対処方法
警告: DC が [左/右] チャンネルで検出されました	表示された増幅器チャンネルが出力に、スピーカーを破損する可能性がある DC を検出しています。	主電源から AC 電源コードを抜いてください。10秒経ってから、電源コードをもう一度差し込んでください。エラーメッセージが消えない場合は、Mark Levinson 取扱店または Mark Levinson カスタマーサービスまでお問い合わせください。
警告: 過温 [左/右]	増幅器チャンネルが熱制限値を超えていることを表します。	本機の温度が下がるまで 10 ～ 15 分お待ちください。[Standby] ボタンを押します。エラーメッセージが消えない場合は、お使いの機器が十分換気されていない可能性があります。換気できるように、増幅器をもっと開放された場所に移動させてください。問題が解消されない場合は、Mark Levinson 取扱店または Mark Levinson カスタマーサービスまでお問い合わせください。
警告: [左/右] チャンネルで過電流	表示された増幅器チャンネルが電流制限値を超えています。	主電源から AC 電源コードを抜いてください。10秒経ってから、電源コードをもう一度差し込んでください。エラーメッセージが消えない場合は、電源コードをもう一度抜き、影響を受けたチャンネルのスピーカーワイヤを本機から外します。10 秒経ってから、AC 電源コードをもう一度差し込みます。エラーメッセージが消えない場合は、Mark Levinson 取扱店または Mark Levinson カスタマーサービスまでお問い合わせください。

お使いの機器がホームネットワークに接続されている場合は、PC またはタブレットを使用して Web ブラウザーから N^o5805/N^o5802 の GUI にアクセスしてください。ユーティリティページの右側には、作動温度 (摂氏表示) を含む、各ステータスインジケータを表す赤色ベルアイコンが表示されます。インジケータをみて、「不良履歴」ファイルを開きます。このデータは、あなたまたは技術者が増幅器の不具合あるいは不良状態を診断するのに役立つ場合があります。



電源が入らない

電源コードをチェックし AC メインコネクターと、通電し、スイッチが入っていない電気コンセントの両方に差し込まれていることを確認します。

リアパネルの主コンセントにつながるメインヒューズをチェックします。

電気遮断機をチェックし、N°5805/N°5802 が接続された電気コンセントに電気が供給されていることを確認します。

N°5805/N°5802 がスタンバイモードになっていないことを確認します。フロントパネルのスタンバイ LED は N°5805/N°5802 がオンのときは、完全点灯した状態になっています。LED は N°5805/N°5802 がスタンバイモードになっているときは、ゆっくり点滅しています。

リモートコントロールが作動しない

リモートコントロール IR 送信機と N°5805/N°5802 フロントパネルディスプレイの IR 受信機の間に障害物がある場合は取り除いてください。

メニューをチェックして、フロントパネルの IR が無効になっていないことを確認します。

リアパネルの IR 入力コネクターが使用されていないことを確認します。

リモートコントロールが N°5805/N°5802 のフロントパネルから 17 ft (5m) の範囲内、また角度 45° の範囲の位置にあることを確認します。

N°5805/N°5802 のフロントパネルディスプレイの IR 受信機が強力な日光、ハロゲンランプ、または蛍光灯に当たっていないことを確認します。これが IR 受信性能の信頼性低下の原因となる場合があります。

リモートコントロールのバッテリーを交換します。

スピーカーまたはライン出力に信号がない

すべてのオーディオケーブルをチェックし、N°5805/N°5802 とすべての関連コンポーネントとの間の接続に問題がないかを確認します。

スピーカーケーブルをチェックし、N°5805/N°5802 とスピーカーとの間の接続に問題がないかを確認します。

接続されたスピーカーの1つを別の増幅器(ある場合)に接続した場合、そのスピーカーが正常に作動するかを確認します。

音量が可聴レベルに設定されていることを確認します (30ではじめ、そこからゆっくり上げる)。

消音が無効になっていることを確認します。消音モードのとき、フロントパネルに「ミュート」の語が表示されます。[ミュート] ボタンを押して、通常操作に戻ります。

選択した入力のオフセット設定により音量が非可聴レベルに下がっていないことを確認します。詳細は、セットアップ/入力を参照してください。

すべての関連コンポーネントが通電した電気コンセントに接続され、電源がオンになっていることを確認します。

選択した N°5805/N°5802 入力に接続されたソース機器が出力信号を発していることを確認します。

「確認できない」入力

選択した入力の名前パラメータが [セットアップ] メンヒューで無効に設定されていないことを確認します。[詳細は、18 ページのセットアップ/入力/を参照してください。]

オーディオからハミングサウンドが出る

コンポーネントを1つずつ外して、問題を解決します。

問題のコンポーネントを特定したら、接地が適切か、N°5805/N°5802 と同じ電気回路に接続されているかを確認します。

音量を最大に設定することができない

[セットアップ]メニューで最大音量レベルを設定することができます。この設定がなされている場合、N°5805/N°5802 が最大音量レベル 80.0 になるのを防止する場合があります。[詳細は、21ページの、セットアップ/音量/最大音量を参照してください。]

フロントパネルディスプレイが作動しない

リモートまたはフロントパネルボタンを押して、オフモードからディスプレイを復元します。[詳細は、22ページのセットアップ/ディスプレイ/自動オフを参照してください。]

イーサネットから接続されない

イーサネットケーブルがルーター、スイッチまたはハブと、N°5805/N°5802 との間で正しく接続されていることを確認してください。

ルーター、スイッチまたはハブの製造年を確認してください。ルーター、スイッチまたはハブの製造年が10年以上前の場合、N°5805/N°5802 との通信に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってもう一度入れ直し、ネットワークと N°5805/N°5802 との間で新しいルーター、スイッチまたはハブを使用してください。

他のすべてで不具合が発生する場合…

電源コードを抜いて N°5805/N°5802 の電源を切ってもう一度入れ直し、少なくとも 10 秒経ってから、電源コードをもう一度接続します。

工場出荷時のデフォルト設定を復元します [26ページのセットアップ/詳細/構成復元を参照してください]。

Mark Levinson の正規取扱店にお問い合わせください。

Mark Levinson カスタマーサービス宛に、888-691-4171 までお電話にてお問い合わせいただくか、www.marklevinson.com をご覧ください。

仕様

仕様

アナログラインステージ (No.5805 のみ)

ライン入力インピーダンス:	バランス (XLR): 20kΩ; シングルエンド (RCA): 10kΩ
音量調節:	バランス、電圧モード、デジタル制御抵抗器ネットワーク
ゲイン:	8.5dB 最大
出力インピーダンス:	55Ω
出力過負荷:	>4.5V RMS
周波数応答:	20Hz ~ 20kHz、±0.03dB、<2Hz ~ 210kHz、+0.1/-3dB (ユニティゲイン音量設定時)
全高調波歪み:	<0.01%、1kHz、<0.03%、20 kHz、2V RMS 出力 (ユニティゲイン音量設定)
S/N比:	>96dB (20Hz ~ 20kHz、平均加重)、>93dB (20Hz ~ 20kHz、広帯域、加重なし) (Referred to 2V RMS 出力参照、ユニティゲイン音量設定時)
入力感度:	スピーカー出力 2.83V RMS のライン入力 53mV RMS、最大音量設定
システムゲイン:	34.5dB、スピーカーへのライン入力、最大音量設定

フォノステージ (No.5805 のみ)

RIAA 周波数応答:	20Hz ~ 20kHz、±0.3dB
超音速フィルタ:	セレクトابل; 20Hz、1次 (6dB/オクターブ)

可動式マグネットモード

入力抵抗:	47kΩ
入力容量:	セレクトابل、20、70、120、170pF
ゲイン:	1kHz で 39dB
全高調波歪み:	<0.01%、1kHz、2V RMS 出力、<0.05%、20kHz、2V RMS 出力
S/N比:	>90dB (20Hz ~ 20kHz 平均加重、2V RMS 出力参照); >78dB (20Hz ~ 20kHz、広帯域、加重なし、2V RMS 出力参照)
最大入力レベル:	1kHz で >190mV、20kHz で >1.6V

可動式コイルモード

入力抵抗:	セレクトابل、 $37\Omega \sim 1000\Omega$
ゲイン:	1kHz で 69dB
全高調波歪み:	<0.01%、1kHz、2V RMS 出力、<0.06%、20kHz、2V RMS 出力
S/N比:	>71dB (20Hz ~ 20kHz 平均加重、2V RMS 出力参照)、 >66dB (20Hz ~ 20kHz、広帯域、加重なし、2V RMS 出力参照)
最大入力レベル:	1kHz で >6.5mV、20kHz で >19mV

D/Aコンバーターステージ

出力電圧:	最大音量/フルスケールで 5.7V RMS (0dBFS)
周波数応答:	20Hz ~ 20kHz、+0/-0.05dB (44.1kHz/16 ビット信号)、20Hz ~ 20kHz、+0/-0.02dB (192kHz/24 ビット信号)
全高調波歪み:	<0.0025%、20Hz ~ 20kHz、3V RMS 出力時 (192kHz/24 ビット信号)、 <0.003%、20Hz ~ 20kHz、3V RMS 出力時 (44.1kHz/16 ビット信号)、 <0.006%、90kHz、3V RMS 出力 (192kHz/24 ビット信号)
S/N比:	>100dB (20Hz ~ 20 kHz、192kHz/24 ビット信号、平均加重)、 >98dB (20Hz ~ 20 kHz、192kHz/24 ビット信号、広帯域、加重なし)、 >94dB (20Hz ~ 20 kHz、44.1kHz/16 ビット信号、平均加重)、 >92dB (20Hz ~ 20 kHz、44.1kHz/16 ビット信号、広帯域、加重なし) 3VRMS 出力参照
サンプルレート/ビット深さ:	PCM: 32、44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8、または 384kHz、最大 32 ビット、DSD: ネイティブまたは DoP、シングル、ダブル、またはクアッドスピード (2.8、5.6、または 11.2MHz)
デジタルプロセッシング:	フル MQA デコーディング、PCM: 7個のユーザーセレクトابلデジタルフィルター設定、352.8/384kHz へのユーザーセレクトابلアップサンプリング DSD: 4個のユーザーセレクトابلデジタルフィルター設定

ヘッドフォン出力

全高調波歪み:	<0.04%、20Hz および 1kHz、2V RMS 出力、 30Ω 負荷、<0.10%、20kHz、2V RMS 出力、 30Ω 負荷
出力過負荷:	>3.3V RMS、 30Ω 負荷
S/N比:	>91dB (20Hz ~ 20kHz、平均加重、2V RMS 出力参照)、>87dB (20Hz ~ 20kHz、広帯域、加重なし、2V RMS 出力参照)
出力インピーダンス:	<2.5 Ω 、20Hz ~ 20kHz

増幅器セクション

周波数応答:	<2Hz ~ 20kHz、+0/-0.2 dB、<2Hz ~ 100kHz、+0/-3dB
S/N比:	>103dB (20Hz ~ 20 kHz、平均加重)、>100dB (20Hz ~ 20 kHz、広帯域、加重なし)
全高調波歪み + ノイズ:	1kHz で <0.035%、125W、8Ω、20kHz で <0.18%、125W、8Ω
出力電力:	8Ωでチャンネルごとに125W RMS、20Hz ~ 20kHz
出力インピーダンス:	<0.098Ω、20Hz ~ 10kHz、20kHz で <0.11Ω
ダンピングファクター:	>82、20Hz ~ 10kHz、20kHz で >72 (すべて8Ω参照)

全般

アナログ入力コネクタ (No5805 のみ):	バランスラインレベル入力 (XLR) 1ペア、シングルエンドラインレベル入力 (RCA) 2ペア、シングルエンド可動式 コイルフォノ入力 (RCA) 1ペア、シングルエンド可動式マグネットフォノ入力 (RCA) 1ペア
デジタルオーディオコネクタ:	光学デジタル入力 (Toslink) x 2、非同期 USB デジタル入力 (USB-B) x 1 No5805: 同軸デジタル S/PDIF 入力 (RCA) x 1、No5802: 同軸デジタル S/PDIF 入力 (RCA) x 2、No5802: バランスデジタル AES/EBU 入力 (XLR) x 1
出力コネクタ:	シングルエンドラインレベル出力 (RCA) 1ペア、スピーカー出力 2ペア (バナナソケット付き高電流電極 柱、 $\frac{1}{4}$ "/6.3mm スペーシング最大厚さ $\frac{1}{8}$ "/3mm のくわ形受入ラグ)
制御コネクタ:	RS-232 ポート x 1 (DB9 コネクタ)、IR 入力 x 1 ($\frac{1}{8}$ "/3.5mm 電話機ジャック)、プログラマブル 12V DC トリガ ー出力 x 1 ($\frac{1}{8}$ "/3.5mm 電話機ジャック)、100mA 最大、プログラマブル 12V DC トリガー入力 x 1 ($\frac{1}{8}$ "/3.5mm 電話機ジャック)、イーサネットポート x 1 (RJ-45 コネクタ)
主電圧:	100VAC、115VAC、または 230VAC、工場出荷時の設定
電力消費:	スタンバイ、「グリーン」モード: <0.4W、スタンバイ、「省電力モード」: 7W、No5805: スタンバイ、「ノーマル」モー ド: 70W、No5802: スタンバイ、「ノーマル」モード: 45W、No5805: 電源オン、静止: 120W、No5802: 電源オン、静 止: 95W、No5805: 電源オン、両チャンネル $\frac{1}{8}$ 定格出力: 240W、No5802: 電源オン、両チャンネル $\frac{1}{8}$ 定格出力: 215W、電源オン、最大: 500W
寸法/重量 (単位):	高さ: 5.72"/145mm、高さ(基台を含まない): 5.25"/133mm、幅: 17.25"/438mm、奥行: 19.98"/507mm、 重量 (No5805): 62 lbs/28.1kg、重量 (No5802): 61 lbs/27.6kg
寸法/重量 (パッケージを含む):	高さ: 13.0"/330mm、幅: 24.0"/610mm、奥行: 28.0"/711mm、重量 (No5805): 73 lbs/33.0kg、重量 (No5802): 72 lbs/32.6kg





HARMAN International Industries, Incorporated
8500 Balboa Boulevard
Northridge, CA 91329 USA

© 2023 HARMAN International Industries, Incorporated. All rights reserved.

Mark Levinson は HARMAN International Industries, Incorporated の登録商標です。

その他企業および製品名は、関連する各企業の商標の場合があります。

"MQA" は MQA Limited の商標です。

本書は、HARMAN International Industries, Incorporated に関するものとは解釈しないものとします。本書の記載事項、ならびに本製品の機能、仕様および外観は、通告なく変更になることがあります。HARMAN International Industries, Incorporated では、本書により発生する可能性があるエラーには一切責任を負いかねます。

カスタマーサービスおよび製品出荷情報は、以下の

www.marklevinson.com 品番

www.marklevinson.com

Web

070-90062

サイトをご覧ください。

改.A.2